

時間と場所に縛られないマイペース受講

本年度の卒後教育講座と漢方講座をインターネット配信します。収録後、順次コンテンツを追加していきます。2022年度の卒後教育講座と漢方講座も再配信します。配信期間中、何時でも何度でも視聴でき、効率的に学習していただけます。
(新規22コンテンツ予定)



認証番号G24

2023年度
京都薬科大学

生涯教育センター
eラーニング講座

配信期間

2023年6月1日(木)～2024年2月29日(木)

参加費

15,500円(受講料15,000円、事務手数料500円)

認定単位

G24 1単位/コンテンツ

※新規22コンテンツ、全48コンテンツ配信予定

過去にeラーニング講座または卒後教育講座・漢方講座を受講し
単位取得済のコンテンツは、認定単位を配付しません(視聴のみ可)。

※プログラム内容(コンテンツ)等は変更される場合があります。最新情報、詳細は必ずホームページをご確認ください。

申込受付

2023年4月1日(土)～2024年2月22日(木)

生涯教育センターWEBサイトより
お申込みください。

<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/program/index.php?code=E202301>



2023新規 配信コンテンツ ※新規コンテンツは収録後、配信追加していきます。

1	脳卒中診療における薬物療法	12	健康管理を担う薬剤師のための漢方講座
2	オンライン服薬指導とファーマシューティカルコミュニケーション	13	眼科領域における漢方の役割～緑内障・ドライアイ・眼底出血を中心に～
3	心不全患者の包括的管理	14	セルフメディケーション領域の漢方－排尿異常－
4	臨床推論の考え方、活かし方	15	認知機能の維持・改善に有効な生薬・漢方薬について
5	～あなたが職場で倒れたら～確実な急変対応を共有しよう!	16	効かせる漢方(女性のQOLを高めるために)(2)
6	脳死患者の臓器提供を見据えた全身管理	17	セルフメディケーション領域の漢方－胃腸障害①(食欲不振・胸焼け)－
7	2型糖尿病における薬物療法	18	生薬の選品と鑑別(4)
8	ビッグデータを活用した医療薬学研究	19	フレイル・サルコペニアと循環器領域の漢方
9	医療用添付文書の活用～IFやRMP、審査報告書で分からないことは～	20	セルフメディケーション領域の漢方－胃腸障害②(胃痛・腹痛)－
10	医療DXと薬剤師の業務	21	知っておきたい漢方配合生薬(その3)
11	セルフメディケーション領域の漢方－めまい－	22	本音で語る! アトピー性皮膚炎治療における漢方の実力・臨床力・癒し力

2022配信コンテンツ

23	皮膚の痒みの臨床	36	【特別講演】漢方の改革者 細野史郎先生を語る
24	痒みの発生メカニズムと薬物治療	37	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方－便秘－
25	認知症患者の診療と地域生活の支援	38	【薬物】薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方 『山本巖流一貫堂漢方医学』(1)感冒・風邪とは?(2)頭痛・目眩
26	出生前検査とダウン症候群	39	【臨床】心療内科領域での漢方治療－柴胡剤を中心に－
27	ダウン症治療法確立を目指したモデルマウスを用いた基礎研究	40	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方－下痢－
28	地域連携における薬剤師の役割	41	【薬物】「漢方薬・生薬に関する最近の話題」
29	亜鉛欠乏と腸疾患	42	【臨床】効かせる漢方(女性のQOLを高めるために)
30	亜鉛の働きと亜鉛欠乏による諸相	43	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方－むくみ－
31	知っておきたい! 高齢者の口腔と「食べる力」の変化～薬剤師としてのアプローチ～	44	【薬物】知っておきたい漢方配合生薬(その2)
32	【臨床】腎臓内科領域における漢方の役割	45	【臨床】漢方の病理学 気血水の考え方2022
33	【特別講演】難治性水滯関連疾患に対する山本巖医学の応用 ～明日から役立つ利水剤の先進医学的な使い方について	46	【基礎】セルフメディケーション領域の漢方－冷え－
34	【特別講演】日本漢方の独自性	47	【薬物】生薬の選品と鑑別(3)
35	【臨床】漢方薬局での店頭経験～生薬を用いた症例を中心に～	48	【臨床】漢方薬でサポートするこれからの循環器診療

生涯教育センター 事務局 実務・生涯教育課
〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
TEL: 075-595-4677 (平日 10:00～16:00)
FAX: 075-595-4792 (24時間受付)
E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp



←生涯教育センター
ホームページ

生涯教育センター
Facebook



社会を動かす薬学へ。



京都薬科大学